

モイモイのモイ

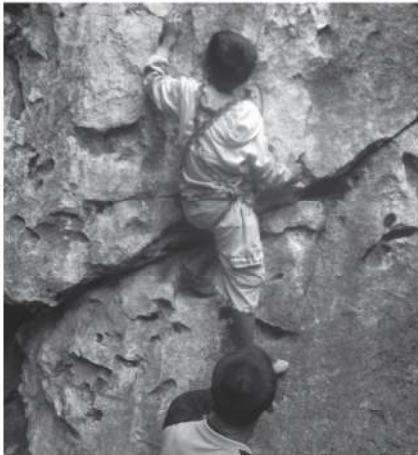
(一歩一歩のたった一歩)



クラウドナイン・クライマーズ・ネット (東京)

伊藤 忠男

http://www.angkorclimbers.net



シソボン「神々の寝床エリア」で、後に人工壁で際立ったクライミングの資質を現すことになるロチロー(9才)の初めてのクライミング。ルートは”1(モイ)、2(ピ)、3(バイ)”5.0。すでに片鱗を暗示するフォームに注目。人工壁の出来るまで、僕らはここで子供たちに講習を行っていた。日陰が多く、岩峰群の頂稜付近にあって風通しも良い。足場もフラットで高さは概ね7~10m程度。初心者でもほとんどプレッシャーを感じないだろう。



シソボン「神々の寝床エリア」で、エリア名の由来となったアクター(土着神)の前で眠る子供。

るのか。クライミングなんて金持ちの遊びじゃん、もっと大事な分野があるでしょ、などなど。とにかく今ほどツイッターが爆発してないくらい良かった。その頃、シエムリアブで伝統的な手織り布の製作技術を復

活させるプロジェクトに取り組むトモが、僕らの仲間になっていた。彼女は雨季の休暇に帰国し、母校の北大から戻って僕の家に行った。決断を逡巡する僕の独り言に彼女が反応する。僕は自然体になり、スムロンたちが望むなら、やれることをやっに行こう、そう決めた。しかし、またしても僕の腹はきりきりと痛んだ。前年に続き、この決断で永年のエージェントをまた一つ失うことになるからだ。

(続く)

目指せ、 アンコールクライマー誕生!!

カンボジアに人工壁が作れますか? そのひとは真つ直ぐに僕を見てそう言った。悪い冗談? というポップアップはすぐに消えた。6ヶ月ください、と僕は言っ、オッファーの入っていた新しいシステム開発の仕事のスケジュールを調整してからカンボジアへ戻った。フィジビリティ・スタディのようなことが必要だった。建設許可、土

地の選択、材料と工具類の入手、建設後の運用体制、そして人脈の構築。カンボジアではまだ前例がないのだ。しかし、カンボジア人の相棒、つまりスムロンが抱くその実現への期待と情熱こそが重要だった。6月、僕はこの計画に寄せる現地の人々の期待と、実現を示唆するデータをPCに詰め込んで帰国した。しかし問題が起きた。資金提供を申し出た方がガイド君の言動からいきなりそれ

を辞退したのだ。この話の起点は崩壊し、僕は二人に弄ばれたのと同じだった。しかし、調査のプロではない僕は、たぶん踏み込んではいけない地点まで来ていた(辞退された方はうちの奥さんの強力な援護射撃もあって、後に僕を助ける重要なひとりになる)。

7月末、敗退か続行か、僕は未踏ルートを前に、心許ないレッジに立っているような気分だった。今や、依頼人は僕自身になってしまったのだ。様々な人々が様々なことを言った。資金もひとしよ行動を始めないと集まらないよ。抜きんでたクライマーでもないあんたがなぜやるのか。クライミング